

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
 全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び
 高質診療データベースのNCD長期予後入カシステムの構築に関する研究
 2017.5.31（水）第1回班会議

分科会Ⅲ
臓器がん登録の現状と成果
 そしてその今後の在り方に関する研究

分科会Ⅲ責任者：海野倫明

H27年度

現状 と **課題** のまとめ

各がん種おける

- 臓器がん登録のシステム
- 臓器がん登録データを用いた臨床研究
- NCDとの連携の可能性
- NCD以外の第三者機関との連携の可能性
- 全国がん登録との関わり展望

H27年度のまとめ

臓器がん登録システムの現状

領域	運営母体	カバー率	運営費用
肺がん	日本肺癌学会、日本呼吸器外科学会 日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会	—	—
乳がん	日本乳癌学会	約70%	500万円
食道がん	日本食道学会・日本胸部外科学会	約20%（全国登録） 約40%（胸外登録）	100万円
胃がん	日本胃癌学会	約50%	50～100万円
大腸がん	大腸癌研究会	約6%	50～100万円
肝がん	日本肝臓学会	約40%	—
胆道がん	日本肝臓外科学会	約15-20%	約180万円
膵がん	日本膵臓学会	約40%	—
腎がん	日本泌尿器科学会	約30%	5種様すべてのがん 450万円
前立腺がん	日本泌尿器科学会	約20%	—
小児がん	日本小児癌・がん学会データセンター 国立成育医療研究センター・名古屋医療センター	約80%以上	500万円
婦人科がん	日本婦人科腫瘍学会	約70%	—
NET	日本神経内分泌腫瘍研究会	約60%	200万円
皮膚がん	日本皮膚悪性腫瘍学会	悪性黒色種：20% 皮膚リンパ腫：40%	100万円

H27年度のまとめ

臓器がん登録システムの課題

- カバー率の低さ
- 登録の動機づけ
- 負担が大きい
- 異なる学会、診療科症例の漏れ

H27年度のまとめ

登録データの利活用の現状と成果

領域	利用体制・ルール	英文論文	GL等への反映
肺がん	体制あり	19	国内GL, UICC-TNM分類に反映
乳がん	審査の上, 会員が利用可能	2	国内GLに反映
食道がん	検討中	3	--
胃がん	検討中	--	--
大腸がん	審査の上, 会員が利用可能	17	国内GLに反映
肝がん	体制あり	16	国内GLに反映
胆道がん	事務局・学会のみ利用	5	--
膵がん	体制あり	3	--
腎がん	審査の上, 会員が利用可能	1	--
前立腺がん	審査の上, 会員が利用可能	2	--
小児がん	審査の上, 会員が利用可能	>10	--
婦人科がん	体制あり	0	--
NET	会員が利用可能	実績未	--
皮膚がん	審査の上, 会員が利用可能	3	--

H27年度のまとめ

登録データの利活用の課題

- 臓器がん登録データの診療ガイドラインへの反映は、まだ途上段階

H27年度のまとめ

NCD, 全国がん登録との連携可能性の現状

領域	NCDとの連携	と 課題	全国がん登録との連携
肺がん	△		予後情報
乳がん	2011年から連携・実装		
食道がん	×		
胃がん	前向きに検討中		
大腸がん	前向きに検討中	費用・データ利用	
肝がん	2015年から連携・実装		
胆道がん	×	費用・データ利用	
膵がん	2012年から連携・実装		
腎がん	一部のがん種で検討中		
前立腺がん			
小児がん	一部のがん種で検討中		
婦人科がん	△		
NET	×	費用	
皮膚がん	×	費用	

H27年度のまとめ

NCD, 全国がん登録との連携可能性の課題

- 各臓器がんで目的や登録項目が異なる
- NCDとの連携を前向きに検討しているがハードルがある（費用、予後追跡など）
- 多くの領域で全国がん登録との連携を想定していない（連携が困難）

H28年度

臓器がん登録の今後の在り方を検討
↓
アンケートを実施

A 登録システム	<ul style="list-style-type: none"> カバー率を上げるには？ 作業負担を減らすには？ 財源は？
B 登録データの利活用	<ul style="list-style-type: none"> 体制、ルールの整備（未整備の領域） 登録データを用いた研究を推進するには？ 成果をよりGL等に反映させるためには？
C NCDとの連携	<ul style="list-style-type: none"> 目的に合った連携方法は？ ステップ、タイムスケジュールの具現化 追跡調査結果の入力は？
D NCD以外の機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> 近い領域の他学会等（外科系と内科系）との連携の実現可能性は？
E 全国がん登録との連携	<ul style="list-style-type: none"> 有機的な連携の方法はあるか？

H28年度のまとめ

A. 臓器がん登録のシステム

A-1: カバー率の現状をどう思うか？

領域	現カバー率	目標	検討中の対策
肺がん	手術例の30%	要改善 50%	NCDデータの利用
大腸がん	6~7%	要改善 未定	具体案まだ
腎がん	20%	要改善 80%	NCDで専門医制度と関連させる
前立腺がん	20%	要改善 80%	NCDで専門医制度と関連させる
婦人科がん	60~70%	要改善 80-90%	専門医基幹施設等への周知
小児がん	80%	要改善	複数の登録事業が並列→集約？
皮膚がん	20% (メラノーマ) 40% (皮膚リンパ腫)	要改善 ≥50%	皮膚がん診療・登録拠点の拡大
甲状腺がん	不明	要改善	耳鼻科・頭頸部外科からの登録整備
制吐薬GL	NA		

H28年度のまとめ

A. 臓器がん登録のシステム

A-2: カバー率を上げるには？

✓ **目的**

- 全数登録が必要？
- 一定の割合があればよい？
- 各臓器で異なる

✓ **対策**

- NCDに実装すれば参加施設が増える？
- 内科系施設の登録は？
- 登録のインセンティブ
- 専門医制度、施設認定にリンクさせる

H28年度のまとめ

B. 登録データの利活用

B-1: 体制は整っているか？

領域	利用ルール	利用した研究	GL等への反映
肺がん	体制あり	あり	あり
大腸がん	体制あり	あり	あり
腎がん	体制あり	あり	未
前立腺がん	体制あり	あり	未
婦人科がん	未	あり	未
小児がん	未	未	未
皮膚がん	未	あり	あり
甲状腺がん	未	未	未
制吐薬GL	未	未	未

利用ルールの問題点

- 利用できる者
- 利用条件
- 成果物に対する学会側の責任の有無
- 公表前の内容チェック

これから進展があると予想される

H28年度のまとめ

B. 登録データの利活用 について

B-2: 登録データ利活用の可能性は？

○ **ガイドラインへの反映と検証**

- 疫学的データ
- 治療法や治療成績など

○ **臨床研究**

- 後ろ向き研究の資料
- 他研究の validation set

○ **その他**

- 専門医施設の優位性を示す

H28年度のまとめ

C. NCDとの連携

C-1: 連携の予定/目的は？

領域	連携の予定	目的				連携項目
		専門医制度	患者性カバー率向上	手間の軽減	DB管理体制	
肺がん	連携予定・時期未定		○	○		一部項目
大腸がん	連携予定・時期未定		△			一部項目
腎がん	連携予定・時期未定	○	○		○	未定
前立腺がん	連携予定・時期未定	○	○		○	未定
婦人科がん	×					
小児がん	連携予定・時期未定	○	○	○		一部項目
皮膚がん	×					
甲状腺がん	2016年から実装		○	○		すべて (予後含む)
制吐薬GL	NA					

H28年度のまとめ

C. NCDとの連携 について

C-2: 連携の目的に合った方法は？ 目的は果たせるのか？

- どのような目的で** 患者性upが目的？外科系症例のみでよい？非手術例・内科的治療例の入力は？
- どんな項目を** 基本的項目？詳細項目？
- どの施設を対象に** 学会参加施設以外の施設の登録も必要？

H28年度のまとめ

D. NCD以外の他組織との連携 について

D-1: 同一疾患を扱う異なる学会との連携は？

内科系 > 外科系？
内科系 < 外科系？

臓器によって割合は異なる

扱う疾患が重複している学会等

日本小児血液・がん学会 ⇔ JCCG (日本小児がん研究グループ)
固形腫瘍観察研究事業および小児血液腫瘍性疾患の前方視的研究、
日本血液学会 疾患登録事業、
日本小児外科学会 悪性腫瘍登録事業

日本皮膚悪性腫瘍学会 ⇔ 日本皮膚科学会
日本形成外科学会

日本甲状腺外科学会 ⇔ 耳鼻科、頭頸部外科の学会

H28年度のまとめ

E. 全国がん登録との連携 について

E-1: 有機的な連携方法はあるのか？

1) 期待すること

- ・ 生存/死亡データの確かさ
- ・ 重複する項目のデータの利用

2) 懸念点・ハードル

- ・ 直接リンクは（NCDも臓器がん登録も）不可
- ・ 自施設の予後データは容易に入手可能か？
- ・ どのような形で連携なら可能か？

分科会III

H29年度の研究計画・目標

- A. 悉皆性の高い登録体制の確立について
- B. 臓器がん登録をNCDシステムへ移行する場合の課題
- C. 臓器がん登録によるガイドライン推奨医療内容に関する臨床研究状況の実態と課題
- D. 臓器がん登録と全国がん登録を一括しうる将来展望と課題
- E. 臓器がん登録の維持・管理に関する財務問題

A. 悉皆性の高い登録体制の確立について

- 1) 現状の登録システムを用いて解決できるか？
- 2) NCDシステムを利用すれば解決？
- 3) 全国がん登録との連携の可能性は？

B. 臓器がん登録をNCDシステムへ移行する場合の課題

- 1) インセンティブ：専門医制度とのリンク
- 2) 内科系施設への登録呼びかけ。施設登録が必要。
- 3) コスト問題
- 4) データ解析をNCDに依頼
- 5) これまでのデータはNCDに移行できない

C. 臓器がん登録によるガイドライン推奨医療内容に関する臨床研究状況の実態と課題

- 1) ガイドラインへの反映と検証
 - ・ 疫学的データ
 - ・ 治療法や治療成績など
- 2) 後ろ向き臨床研究の資料
 - ・ 他研究のvalidationなど

D. 臓器がん登録と全国がん登録を一括しうる将来展望と課題

- 1) 連携・突合可能???
- 2) 法制面、倫理面では？

E. 臓器がん登録の維持・管理に関する財務問題

- 1) 学会の予算で維持・管理（会員数に依存）
臓器間で格差あり